

平成 3 1 年 3 月
第 2 回清水町議会定例会一般質問事項

質 問 者	質 問 事 項	
議 席 氏 名		
3	山 下 清 美	<p>1 家畜のふん尿対策について</p> <p>本町は農業の町として特に酪農が盛んであり、牛の頭数は平成 27 年 2 月 1 日の農林業センサスで 36,000 頭以上、今後も同様の頭数で推移していくと思われる。</p> <p>そこで課題の一つとなるのが、ふん尿の処理である。</p> <p>次の 2 点について伺う。</p> <p>(1) 現在稼働しているバイオガスプラント及び整備中の美蔓地区、羽帯地区でも検討されているが、他にふん尿処理が必要と思われる地区の状況は。</p> <p>(2) 第 5 期清水町総合計画に、「【資源循環型農業の推進】畜産農家と畑作農家が連携して、完熟した堆肥と麦かんととの交換などにより、資源循環型を推進します」とあるが、資源循環の現状は。</p> <p>2 高齢者の状況について</p> <p>全国的に高齢化が進んでおり、本町でも平成 27 年 10 月 1 日の国勢調査では人口 9,599 人に対して 65 歳以上人口は 3,330 人で 34.7%を占めている。今も単身高齢者及び高齢者だけの世帯が増え続けているが、健康で元気な方も多くいる。</p> <p>心配なのは、単身高齢者及び高齢者だけの世帯の状況である。</p> <p>次の項目について伺う。</p> <p>(1) 第 5 期清水町総合計画で、「【社会参画の推進】機会や情報の提供など、高齢者が社会参加しやすい環境をつくり、活動を支援します」とあるが、活動支援の現状は。</p> <p>(2) 同じく、「【自立して暮らせる地域づくり】町内会と連携し、緊急医療情報キットの配布や要援護者名簿の作成などを行い、高齢世帯の実態の把握に努めます」とあるが、高齢世帯実態把握の現状は。</p>

質	問	者
議	席	氏
氏		名
		<p data-bbox="710 181 1241 219">質 問 事 項</p> <p data-bbox="555 255 1142 293">3 コミュニティ・スクールについて</p> <p data-bbox="547 353 1409 488">教育委員会では、しみず「教育の四季」に基づき町の教育を展開してきたが、今年度、コミュニティ・スクールの来年度立ち上げに向けて検討している。</p> <p data-bbox="576 501 884 539">次の項目について伺う。</p> <p data-bbox="580 598 1409 680">(1)今までの“しみず「教育の四季」”の実践推進方法との違いは。</p> <p data-bbox="580 741 1409 824">(2)子育てが終わった世帯とのつながりをどのようにしていこうと考えているのか。</p>

質 議	問 席	者 氏	事 名	項
9	口 田 邦 男	<p>1 本町における不祥事の対応策は</p> <p>本年度、本町において職員・町民等の不祥事が起きてしまった。誠に恥じることであり、すでに事案については報告を受けているが新聞で話題となり、町の汚点となったのは事実である。</p> <p>今後の対応については二度と起こさぬよう努力する程度の説明ではなかったかと思う。</p> <p>具体的な要因と今後の防止策について次の点を伺う。</p> <p>(1)セクハラは論外であるが、パワハラは業務上の必要な指示や指導に不満を感じたりする場合と、いじめ・嫌がらせから起こる場合があり、何を根拠にパワハラと認めたのか。本町に規定はあるのか。安易に認めることは、職場での指示や指導に影響を及ぼすのではないかと思うが、そうした心配はないのか。</p> <p>(2)アイスホッケーチームの中で全国的に話題となった事案があるが、町内どこの職場においても起こりうる。既に起きていることかもしれない。町長はこの件について要因と防止策をどう考えているか。</p> <p>2 防災対策は万全か</p> <p>台風10号による災害復旧もほぼ終わりに近づいている。そうした中、防災対策は万全だろうか。</p> <p>次の点について伺う。</p> <p>(1)今後、台風10号と同等、それ以上の規模の台風が来た場合、河川・橋・道路・畑・上下水道・農業用水はどうなるか。最悪の場合の想定はできているのか。</p> <p>(2)胆振東部地震でのブラックアウトによる被害は酪農家だけではなく、商業施設・工場・一般家庭等大きな影響を受けた。対策として発電機の導入等が行われているが、大規模酪農家が主であり、商工業施設、一般家庭への対応策はどうなっているのか。</p>		

質 問 者	議 席 氏 名	質 問 事 項
		<p>(3)先般も厚真町で震度6弱の地震があり、JRは運休、国道は通行止めとなるなど被害が出ている。本町においても大規模地震は必ず起こりうる。これらに対しても早急に対応すべきと考えるが、対策を伺う。</p> <p>(4)あらゆる災害を想定し全町的な防災訓練を行うべきと思うが、町長の考えを伺う。</p>

質 議	問 席	者 氏	事 問	項 名
7	佐藤幸一	1	<p>J R十勝清水駅の跨線橋対策について</p> <p>J R十勝清水駅の跨線橋対策として、エレベーター設置は費用の関係で早急な対応は困難とのことである。</p> <p>そこで、駅構内に構内通路の設置を働きかけていくことを提案したい。</p> <p>構内通路は、全国的には減少傾向にあるとはいえ、バリアフリー化のため構内通路を復活した事例もあると聞いている。</p> <p>構内通路の設置について、官民が一体となり J R北海道に要望していただきたいかがか。</p> <p>2 清水高等学校の支援について</p> <p>教育行政執行方針には具体的な支援策が盛り込まれていない。</p> <p>そこで、平成 30 年第 8 回定例会で答弁のあった、教育委員会の若手職員を中心としたプロジェクトチームの設置と、遠方から通学する生徒の昼食確保への協力について伺う。</p> <p>(1) 「プロジェクトチーム」からの意見や提案の内容と、それを取り組まない理由について伺う。</p> <p>(2) 給食の提供に向けた取組について伺う。</p>	

質 議	問 席	者 氏 名	質 問 事 項
5	鈴木孝寿	<p>1 観光協会への補助事業の拡大による商工業への振興策について</p> <p>昨年、実施された清水公園の観光振興としての観光協会を經由した補助事業は一事業者に総額 1,500 万円に上るものと認識しているが、現時点での事業評価と今後 2 年間の展望と拠点としての清水公園の整備状況、及び今後の構想・展開について考えを伺う。</p> <p>また、現在最大の町内外者の交流を図れている場所は、既存の飲食店や物販店であることは否めない事実である。より本町全体を活性化させるために、施設整備、更には雇用の安定を図る政策が待たれる中、交流人口増加を前提として商工業者への本政策の拡大を求めたいと思うが考えを伺う。</p> <p>2 結婚・少子化対策事業について</p> <p>年度の途中から始まった結婚・少子化対策事業はマスコミを上手に活用し、本町の取組を全国に少しでも知ってもらうものとして、順調に進捗していることと思う。この事業の今後の進め方について伺う。</p> <p>3 立地適正化計画の策定について</p> <p>本町のマスタープランは平成 31 年度に作成されると北海道のホームページに掲載されていたが、より高度な立地適正化計画はこのマスタープランあってからのものと捉えている。十勝管内のほぼ全町村がマスタープランを持っている中で、本町としてはなぜいまだに無いのかを伺う。</p> <p>また、その中で公共施設の新築等が行われることに、何を基準として事業が行われるかを伺う。</p>	

質 議 席	問 者 氏 名	質 問 事 項
4	中河つる子	<p>1 高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる福祉サービスの提供は</p> <p>本町も高齢化が進み、高齢者は一日でも元気で、自分のことは自分でできる生活を目指して日々努力している。そのように努力していても、いつまでも元気でいられない時がやってくる。「体が動きづらくなった時」にどのように暮らしていくかは、皆さんの大きな心配事である。</p> <p>第5期清水町総合計画には、Ⅲ基本計画の第2編、第2章「高齢者の暮らしと社会参画」の現況と課題に「高齢者が互いに支えあうとともに、地域ぐるみでその生活を見守る体制をつくる必要がある」とあり、基本目標として、②高齢者が生きがいを持って自立し、安心して暮らせる地域づくりを進めます。③住み慣れた地域で安心して生活できる高齢者福祉サービスの提供を目指しますとあり、本町の積極的な姿勢を大いに評価したい。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) 今後、どう高齢者が住み慣れた地域で安心して生活していくのか、町の具体的な施策の構想を伺う。</p> <p>(2) 本町で高齢者が安心して住むことができる家(空き家の利用も含めて)、町内にも高齢者下宿やシェアハウスのような所ができたなら、老人施設への入所や病院に入院するまでの間、地元に住むことができると考える。本町におけるそうした施設の取組状況を伺う。</p>

質 議 席	問 者 氏 名	質 問 事 項
6	高橋政悦	<p>1 小学校の時間割配分について</p> <p>2020年度から全面実施される小学校の次期学習指導要領では、英語の教科化などに伴って、標準授業時数が3年生以上でそれぞれ年間35時間分増えると聞いている。</p> <p>ただし、どこで増やすかはそれぞれの教育委員会等の創意工夫に任されており、今後、いろいろ知恵を絞らなければいけないと思う。</p> <p>加えて、小学校でのプログラミング教育にも授業時数を割かなくてはいけなくなる事象を踏まえ、学校の子どもたちにとって、どんな時間割や授業日数がふさわしいのか、保護者・地域も一緒になって考えていく必要があると考えるが、本町の考える効果的な「カリキュラム・マネジメント」について伺う。</p> <p>2 町営住宅を賃貸契約する際の連帯保証人について</p> <p>町営住宅管理条例では、入居者が町と賃貸契約を結ぶ際の手続として、第10条で連帯保証人の必要性を述べており、町営住宅管理条例施行規則では、その連帯保証人を「町内に住所を有する者であること」と、その8条に定めている。</p> <p>町営住宅の設置は、公営住宅法を根拠としているが、その公営住宅法は、その目的を「国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与すること」としており、これは住生活基本法の第1条にも示されている目的、基本理念でもある。</p> <p>その中で、本町が求めている連帯保証人は、「町内に住所を有する者2名（ただし、1名に限り2親等以内の町外在住者にすることができる）」と条件を限定している。申込者には人間関係が希薄になっている方が少なからずいることも予想できるし、そうでなくても、他の市町村から転入・移住しようと考えられている方々に町内在住の連帯保証人を探すことが難しいのは容易に想像できる事柄だと思う。</p> <p>セーフティネットとしての役割が求められる本町公営住宅において、連帯保証人のこうした地域要件が定められている理由を伺う。</p> <p>また、連絡をとることが可能であれば、その要件を日本国内に在住の方にまで広げるべきと考えるが、見解を伺う。</p>

質 議	問 席	者 氏	事 項
2	川上均	<p data-bbox="549 259 1283 297">1 交通弱者に対するモビリティ政策について</p> <p data-bbox="549 353 1418 680">子どもや高齢者、障がい者等にとっては通学、通院、買物などの移動手段の確保が制限され、地域住民として安心して暮らし続けることが困難となってきている。そこで町の政策として、地域住民の日常の移動手段の充実と、より住みやすいまちにするため、①コミュニティバス②乗合タクシー③清水帯広線バスを運行していると思うが、政策の柱となるコミュニティバス及び今後の地域公共交通の取組について次の点を伺う。</p> <p data-bbox="580 741 1418 925">(1) コミュニティバスの運行日について、現在、清水の巡回は月・水・木曜日、御影の巡回は火・金曜日となっているが、スーパーの特売日である土曜日にも運行してほしいという声が寄せられており、土曜日の運行を検討できないか伺う。</p> <p data-bbox="580 985 1418 1169">(2) 朝のコミュニティバスと清水帯広路線バスが接続できないか伺う。特に帯広市等の医療機関を利用する人にとっては、JRで行くよりも格段に利便性があり、接続による利用者増も見込めると思われる。</p> <p data-bbox="580 1229 1418 1361">(3) 将来的にも費用対効果を考えた場合、コミュニティバスを廃止して全てタクシーの助成に振り替えたほうが経費の削減と利便性の向上が図られると考えられる。</p> <p data-bbox="606 1373 1418 1601">平成 29 年度までの実利用実績は清水、御影合わせて 1 日平均約 25 人となる。町では平成 31 年度より乗合タクシーを見直し、社会福祉協議会と連携して生活支援を実施する予定と聞いているが、コミュニティバスの現在の利用者とバッティングし、バスの利用者が更に減る可能性が想定される。</p> <p data-bbox="606 1612 1418 1747">また、将来的に停留所まで歩いて行けなくコミュニティバスに乗れない高齢者が増えることは十分予想され、交通弱者対策の充実が求められる。</p> <p data-bbox="606 1758 1418 1892">平成 30 年度予算ベースでコミュニティバスは利用者 1 回当たり約 1,900 円になり、これをタクシーに単純に置き換えて料金に換算するとそれ以下で済む計算になると考えられる。</p> <p data-bbox="606 1904 1418 1989">この点について費用対効果の試算を明らかにし、将来的な方針について伺う。</p>	